マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ
「海上保安庁の仕事　大研究」

平成２９年１２月１６日のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動をご報告します。

○海上保安庁の皆様やクラブ会員を支えてくださる多くの皆様の存在を知り、感謝することで、クラブの活動に誇りを持つ。

○海上保安庁の測量船「明洋」の船内見学及び海の安全を３６５日守り続けている海上保安官の仕事や使命等について八戸海上保安部において講義を受け、海を守り、愛する心を海のプロフェショナルから学ぶ。

○活動を通じクラブ会員や家族同士の交流を深め、“海洋・地球の学び”を軸とした地域のコミュニティ形成を図る。

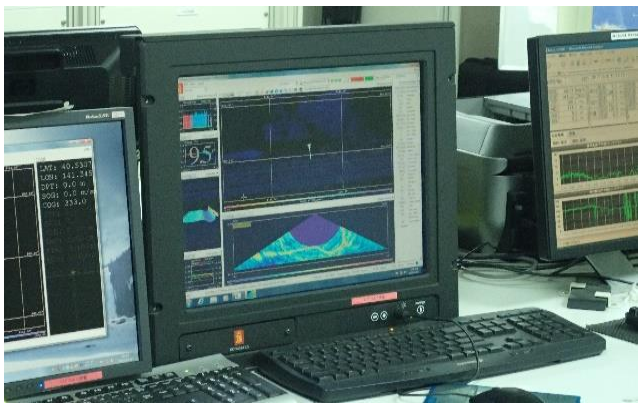
期　日：平成２９年１２月１６日（土）　天気：晴れ
場　所：八戸港（白銀埠頭）、八戸海上保安部
参加者：ジュニア会員３９名、シニア会員３名、付添２５名、
　　高橋　晃「ちきゅう」たんけんクラブ副会長、館長他２名

９：４０　バス乗車、マリエント出発
９：５０　八戸港到着、開講式、測量船「明洋」船内見学、講義
１２：００　終了、八戸海上保安部出発
１２：１５　マリエント帰着、たんけんクラブ会員　レポート作成
１３：００　レポート作成終了・解散

海上保安庁　測量船「明洋」船長はじめ乗組員の皆様に出迎えていただき、開講式を行いました。
今回は、九州の宮崎県沖の測量業務を終え八戸に寄港しました。東京を中心に全国の海を回り、
業務は、通常２０日間かけて行われるようです。

観測長の瀬尾様から、観測室内の音波やレーザーを使って海底の地形や海底下の地層を測る観測機器について説明がありました。これらの調査は海底火山の位置や海底資源の探査・開発などに役立てられます。

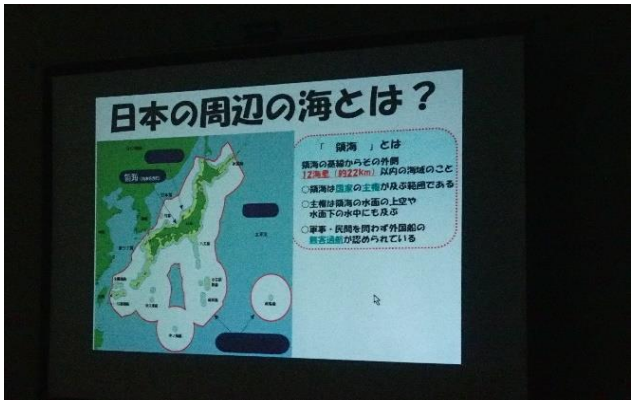
測量船「明洋」の停泊している白銀埠頭の海底地形の様子も知ることができました。
また、海の流れを測る機械もありました。

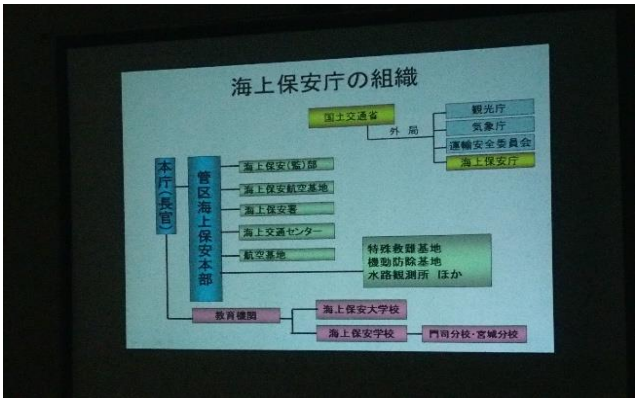


操舵室では、主任航海士加藤様から２機の可変スクリューによって船が進むこと。航行中の監視や他の船との交信により安全に航海を行うことなどの説明を受けました。観測室と同じように操舵室にもたくさんの機器類がありました。

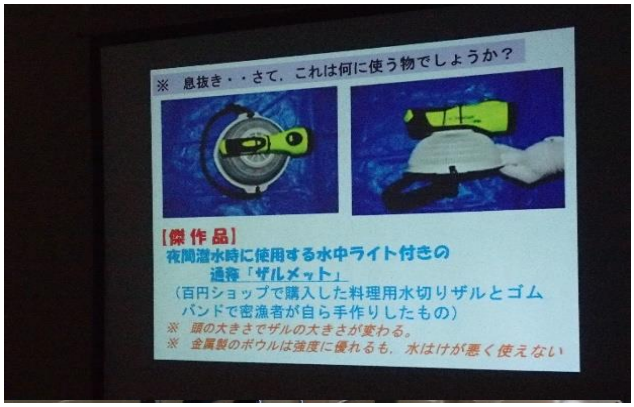
船の後部には観測準備室があり、海に投げ入れる観測機器等が置かれていました。

八戸海上保安部　榊管理課長様より海上保安庁の組織、日本の領海や排他的経済水域（EEZ）を守ること、海難救助、海での自然災害に備える業務などについて説明がありました。海上保安庁の職員は全国で１３，７４４名（平成２９年度末）、うち八戸海上保安部は約８０名の職員がいます。





密漁者は、密漁がバレないようにホームセンターなどで売られている日用品を使い密漁を行っているようです。



東京の南約１，０００キロ、父島の西約１３０キロの太平洋上に位置する西ノ島の溶岩も見せていただきました。

マリエントに戻り、乗船見学した測量船「明洋」のこと、講義を受けた海上保安庁のお仕事についてレポートにまとめました。

最後になりましたが、海上保安庁の測量船「明洋」の船長並びに乗組員の皆様、講義をしていただきました榊管理課長はじめ八戸海上保安部の皆様、お忙しい中、「ちきゅう」たんけんクラブのためにご対応いただき、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

クラブ発足１０周年の節目を迎えた『マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ・ジュニア』・『マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ・シニア』会員それぞれ、今回見学したこと、学んだことを今後の活動に活かすよう一層頑張って参りますので、今後とも変わらぬご支援・ご協力の程宜しくお願い申し上げます。